令和5年３月　博士前期課程修了確定者アンケート集計結果

◎概要　　本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、
実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。

◎実施期間　　令和5年3月3日から令和5年3月24日（学位記授与式）まで

◎実施方法　　理事（教育、学生担当）・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、
webによる回答として実施した。

◎調査対象　　（学位別）知識75名、情報92名、マテリアルサイエンス55名、融合12名　合計234名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	58	77%
情報科学	79	86%
マテリアルサイエンス	40	73%
融合科学	10	83%
合計	187	80%

各項目の無回答分は集計から除いている。

（参考）

令和3年		令和4年	
人数	回答率	人数	回答率
59	88%	41	68%
101	88%	50	72%
57	81%	50	72%
5	71%	5	83%
217	84%	146	72%

学生種別	人数
外国人留学生	64
寄宿舎居住者	80
社会人	22
東京サテライト	22
学内進学予定者	22

（参考）

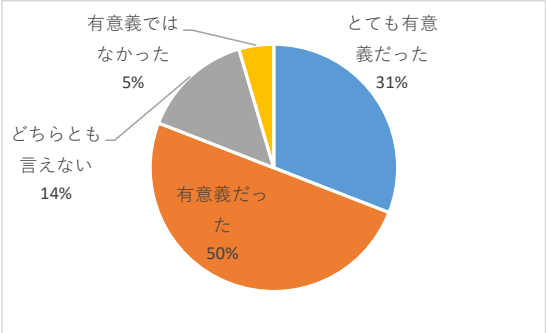
令和3年	令和4年
人数	人数
68	54
94	56
27	23
21	14
31	23

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答（「とても良い+良い」等）の比率を比較した表をグラフ下に記載。

＜Ⅰ　教育システムについて＞

1.　【令和２年３月以前入学者対象】　本学では、入学後１週間のオリエンテーションを実施し、学長講話、履修ルールの説明、研究室紹介、各学系・センター企画、語学教育・海外派遣、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生同士の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。該当の項目を選択してください。

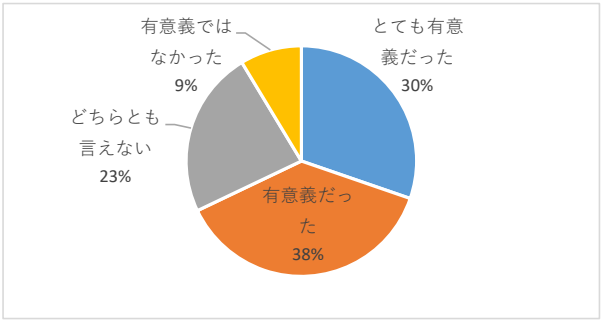
とても有意義だった	34
有意義だった	55
どちらとも言えない	16
有意義ではなかった	5



令和3年		令和4年		令和5年	
192/213	90%	30/33	91%	89/110	81%

2.　【令和２年４月以降入学者対象】令和２年４月以降の入学者については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、オリエンテーションをオンラインで実施しました。あなたにとって、このオリエンテーションは有意義なものでしたか。

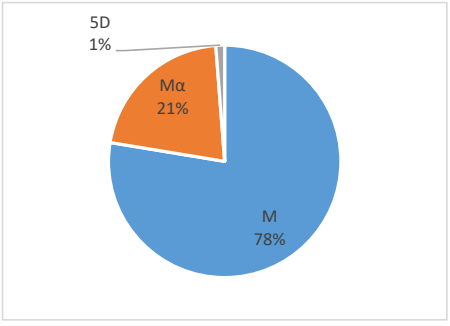
とても有意義だった	49
有意義だった	61
どちらとも言えない	38
有意義ではなかった	14



令和3年		令和4年		令和5年	
―	―	78/113	69%	110/162	68%

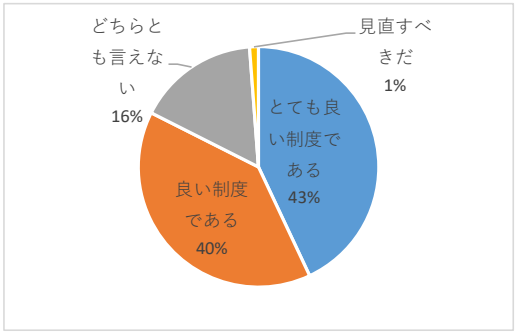
3.　本学では、学部３年から飛び入学後、４年間での一貫的な博士教育（ＳＤプログラム）、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした５年一貫的な博士教育　（５Ｄプログラム）、分野を変えて新たな専門分野に挑戦する者を対象とした２年３カ月～３年間の修士教育（Ｍαプログラム）の教育プログラムを準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。あなたが選択したのはどの教育プログラムですか。

M	128
Mα	35
5D	2



4. 本学では、単位制度を徹底するために専門科目の授業は極力午前中に開講し、午後は個別指導を行うためのチュートリアルアワーと教室外における準備学習・復習の自学自習時間、及びグローバルコミュニケーションセンター開講科目、その他の科目等の開講に充てています。この制度についてどう思いますか。該当の項目を選択してください。

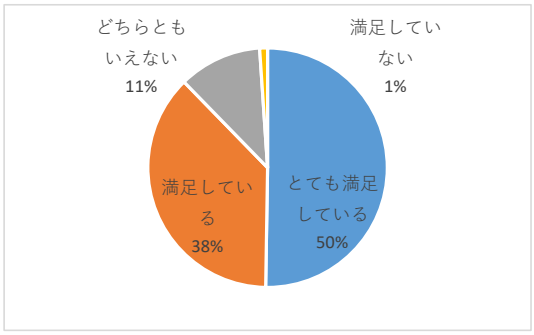
とても良い制度である	71
良い制度である	65
どちらとも言えない	27
見直すべきだ	2



令和3年		令和4年		令和5年	
174/194	90%	115/132	87%	136/165	82%

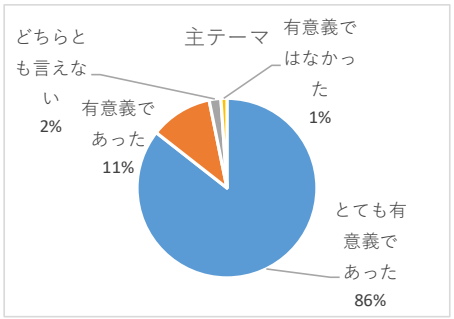
A.令和２年４月以降から、石川キャンパスでは令和４年９月まで、東京サテライトでは令和５年３月まで、授業をオンラインで実施しました。オンラインでの授業は満足できるものでしたか。該当の項目を選択してください。

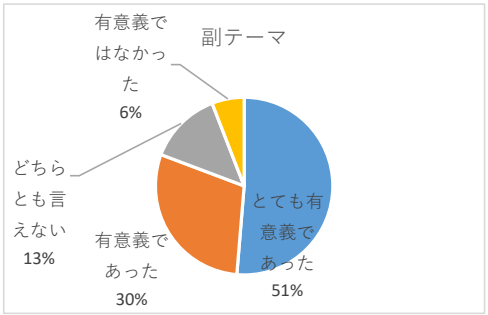
とても満足している	94
満足している	70
どちらともいえない	21
満足していない	2



5. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。該当の項目を選択してください。　※以下、融合科学共同専攻の学生は、主テーマ研究を主任研究指導教員との研究、副テーマ研究をラボローテーション時の指導教員との研究に読み替え願います。

	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	160	96
有意義であった	21	55
どちらとも言えない	4	25
有意義ではなかった	2	11



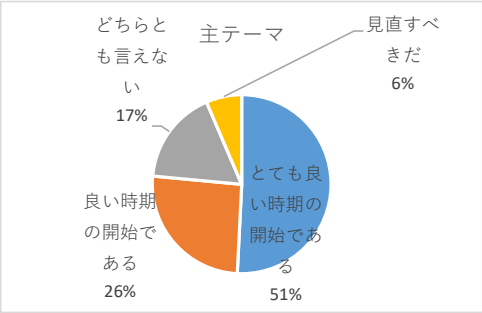


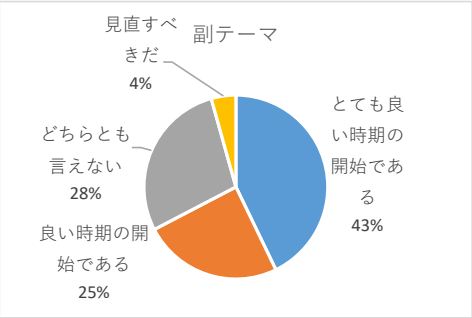
主テーマ研究	令和3年		令和4年		令和5年	
	207/213	97%	146/146	100%	181/187	97%

副テーマ研究	令和3年		令和4年		令和5年	
	184/213	86%	128/146	88%	151/187	81%

6. 主テーマ研究及び副テーマ研究の開始時期についてどう思いますか。

	主テーマ	副テーマ
とても良い時期の開始である	95	80
良い時期の開始である	48	46
どちらとも言えない	32	53
見直すべきだ	12	8



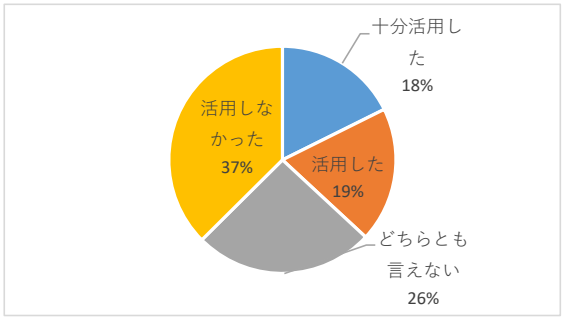


主テーマ研究	令和3年		令和4年		令和5年	
	168/213	79%	123/146	84%	143/187	76%

副テーマ研究	令和3年		令和4年		令和5年	
	165/213	77%	111/146	76%	126/187	67%

7. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書の作成を求めていますが、この学修計画・記録書は十分活用されましたか。

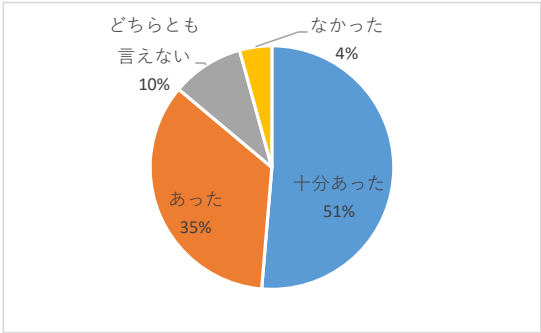
十分活用した	33
活用した	36
どちらとも言えない	48
活用しなかった	70



令和3年		令和4年		令和5年	
88/213	41%	71/146	49%	69/187	37%

8. 本学では、主体的な学修を促す仕組み（ゼミでの発表、授業におけるレポート提出、学生グループによる取組等）があったと思いますか。

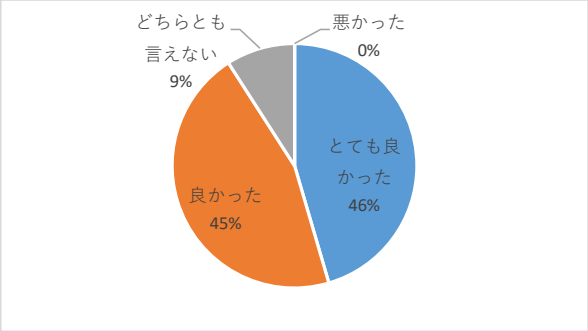
十分あった	96
あった	65
どちらとも言えない	18
なかった	8



令和3年		令和4年		令和5年	
193/213	91%	137/146	94%	161/187	86%

11. 社会人コース（東京サテライト）の修了者にお聞きします。授業や研究指導はどうでしたか。

とても良かった	10
良かった	10
どちらとも言えない	2
悪かった	0

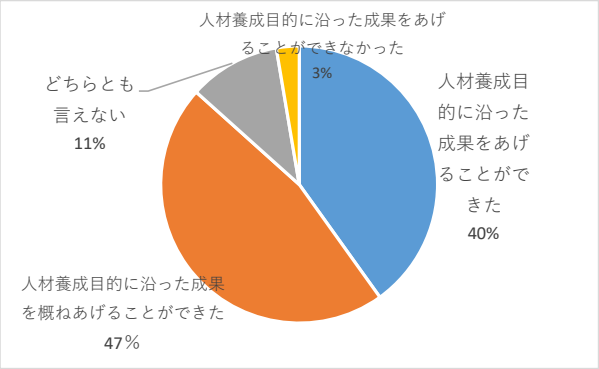


令和3年		令和4年		令和5年	
22/22	100%	13/14	93%	20/22	91%

12. 本学では、次のような人材養成目的を掲げています。

・先端科学技術専攻：先端科学技術の確かな専門性とともに、持続可能な社会において求められる幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ社会や産業界のリーダーとして活躍できる高度科学技術イノベーション人材を育成する
・融合科学共同専攻：グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を育成する
あなたにとって、本学の博士前期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。該当の項目を選択してください。 「どちらとも言えない」又は「人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった」と回答された方は、どのような成果を期待して入学されましたか。

人材養成目的に沿った成果をあげることができた	75
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	87
どちらとも言えない	20
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	5



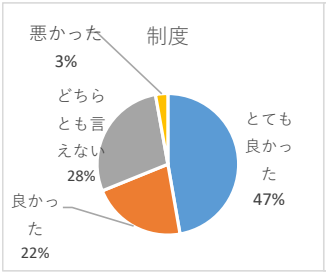
令和3年		令和4年		令和5年	
195/213	92%	130/146	89%	162/187	87%

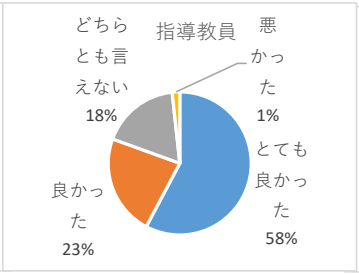
＜Ⅱ　研究室指導体制について＞

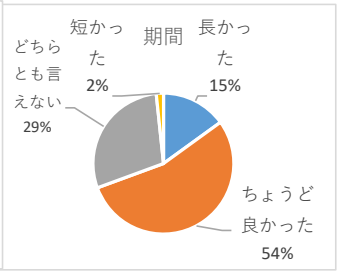
13. 導入配属（仮配属）について、どのような感想を持っていますか。

	制度	指導教員
とても良かった	85	104
良かった	39	41
どちらとも言えない	51	32
悪かった	5	3

		期間
長かった		27
ちょうど良かった		98
どちらとも言えない		52
短かった		3







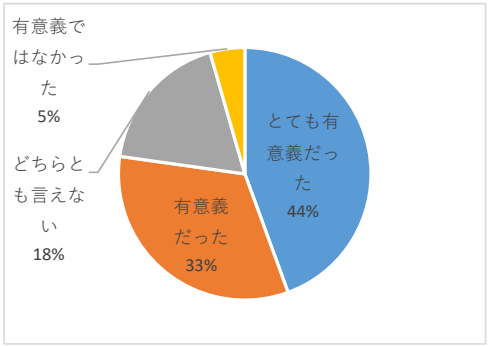
制度	令和3年		令和4年		令和5年	
	138/210	66%	99/146	68%	124/180	69%

指導教員	令和3年		令和4年		令和5年	
	175/210	83%	117/146	80%	145/180	81%

期間	令和3年		令和4年		令和5年	
	112/210	53%	110/146	75%	125/180	69%

14. 本学では、学生１人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の３人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。該当の項目を選択してください。　※以下、取得学位が修士（融合科学）の修了者は、主指導教員を主任研究指導教員、副指導教員を副主任研究指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員をラボローテーション時の指導教員に読み替え願います

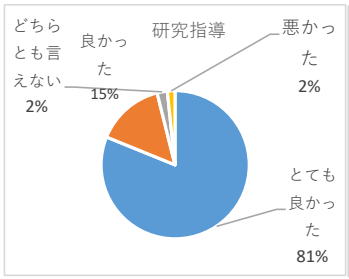
とても有意義だった	80
有意義だった	59
どちらとも言えない	33
有意義ではなかった	8

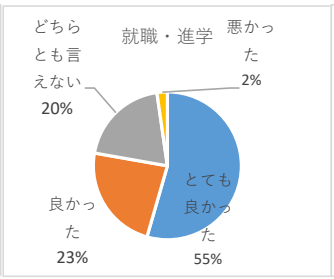


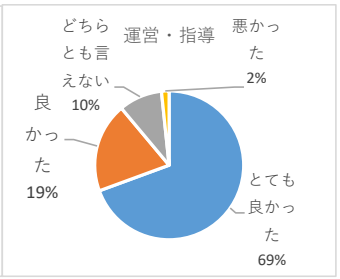
令和3年		令和4年		令和5年	
180/210	86%	125/146	86%	139/180	77%

15. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

	研究指導	就職・進学	運営・指導
とても良かった	146	98	125
良かった	27	42	35
どちらとも言えない	4	36	17
悪かった	3	4	3







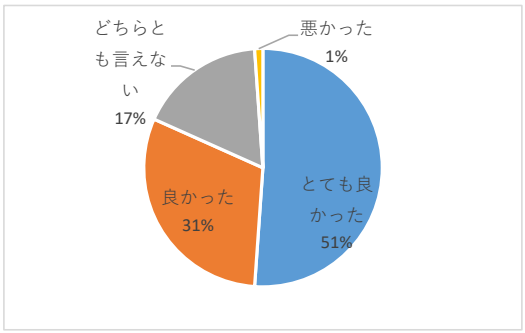
研究指導	令和3年		令和4年		令和5年	
	196/210	93%	140/146	96%	173/180	96%

就職指導	令和3年		令和4年		令和5年	
	161/210	77%	122/146	83%	140/180	78%

研究室運営・学生生活指導	令和3年		令和4年		令和5年	
	179/210	85%	131/146	90%	160/180	89%

16. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

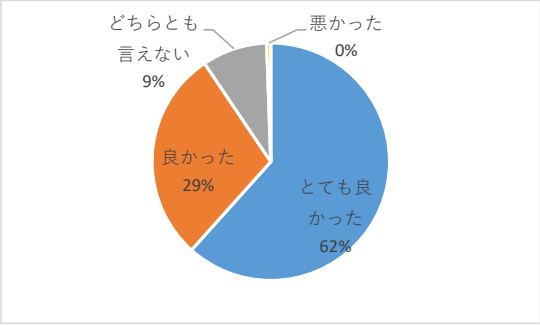
とても良かった	92
良かった	55
どちらとも言えない	31
悪かった	2



令和3年		令和4年		令和5年	
171/210	81%	123/146	84%	147/180	82%

17. 副テーマ指導教員又はインターシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

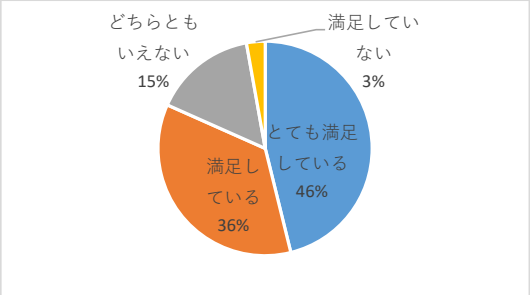
とても良かった	111
良かった	52
どちらとも言えない	16
悪かった	1



令和3年		令和4年		令和5年	
193/210	92%	133/146	91%	163/180	91%

B.令和２年４月以降から、石川キャンパスでは令和４年９月まで、東京サテライトでは令和５年３月まで、研究指導をオンラインで実施しました。オンラインでの研究指導は満足できるものでしたか。

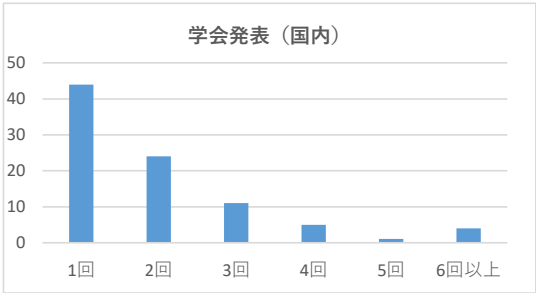
とても満足している	83
満足している	64
どちらともいえない	28
満足していない	5



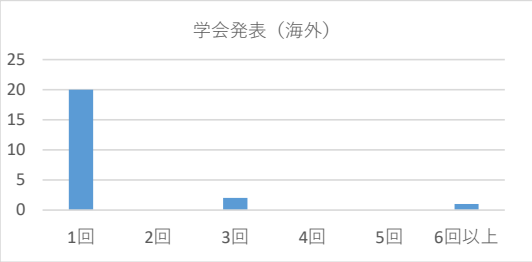
18. 本学在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

	国内
1回	44
2回	24
3回	11
4回	5
5回	1
6回以上	4

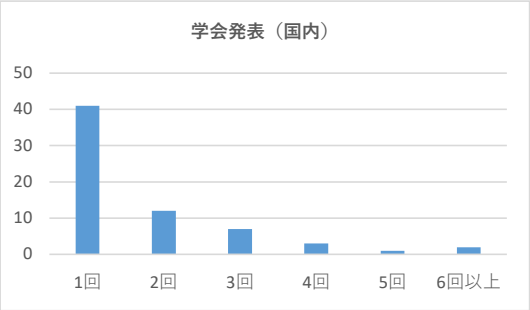


	海外
1回	20
2回	0
3回	2
4回	0
5回	0
6回以上	1

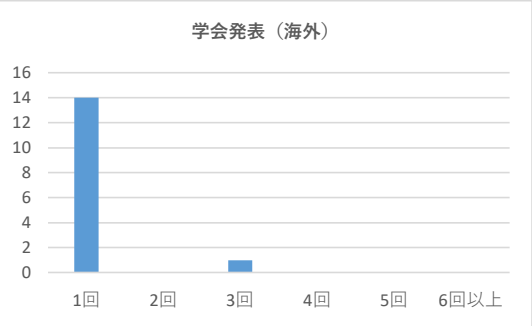


【うち費用助成あり】

	国内
1回	41
2回	12
3回	7
4回	3
5回	1
6回以上	2



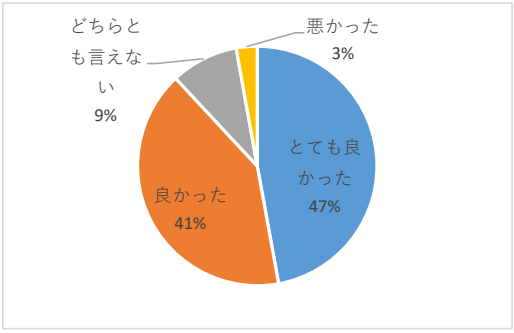
	海外
1回	14
2回	0
3回	1
4回	0
5回	0
6回以上	0



＜Ⅲ　学生支援等について＞

19. 教育支援課、学生・留学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	83
良かった	72
どちらとも言えない	16
悪かった	5

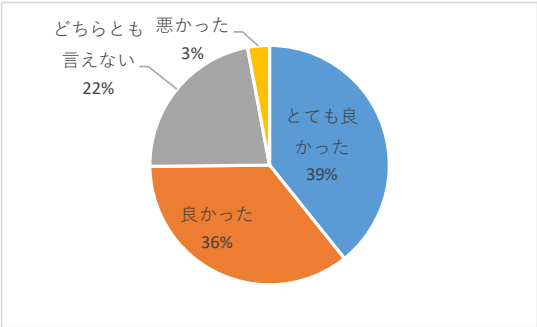


令和3年		令和4年		令和５年	
182/207	88%	131/146	90%	155/176	88%

＜Ⅳ　キャリア形成支援等について＞

23. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事等を学生・留学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、自由応募・推薦応募に対する支援体制の整備を進めてきました。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

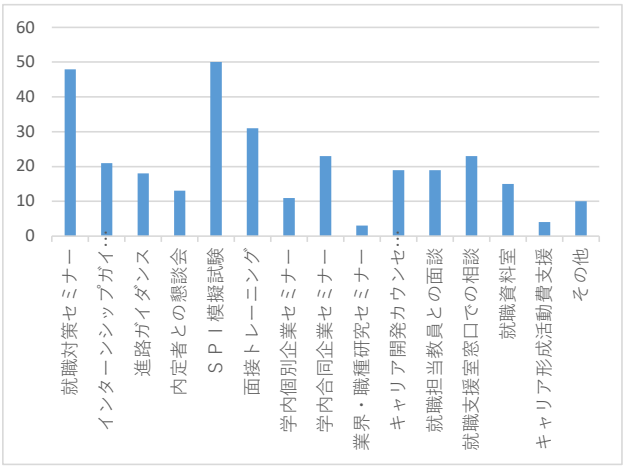
とても良かった	53
良かった	48
どちらとも言えない	30
悪かった	4



令和3年		令和4年		令和5年	
127/162	78%	92/113	81%	101/135	75%

24. 本学でのキャリア支援で、役立ったものを上位３つまで選択してください。

就職対策セミナー	48
インターンシップガイダンス	21
進路ガイダンス	18
内定者との懇談会	13
ＳＰＩ模擬試験	50
面接トレーニング	31
学内個別企業セミナー	11
学内合同企業セミナー	23
業界・職種研究セミナー	3
キャリア開発カウンセラーの就職相談	19
就職担当教員との面談	19
就職支援室窓口での相談	23
就職資料室	15
キャリア形成活動費支援	4
その他	10



（その他）

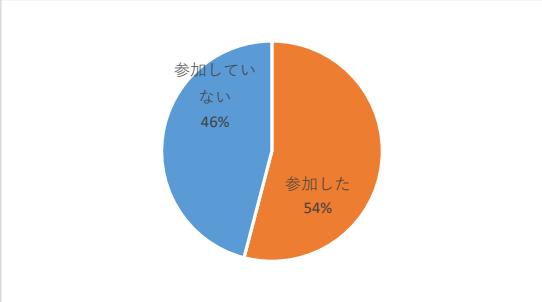
キャリアサポートシステム

就職支援室の職員との会話が何よりも就職の助けとなった

特に利用していない

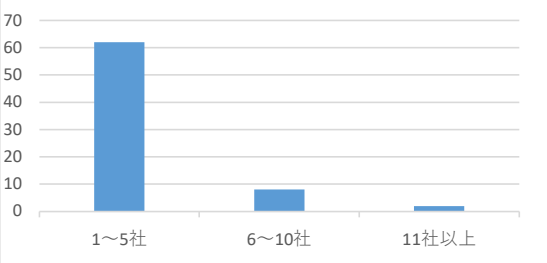
25. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加企業数及び合計参加期間を記入してください。

参加した	73
参加していない	62



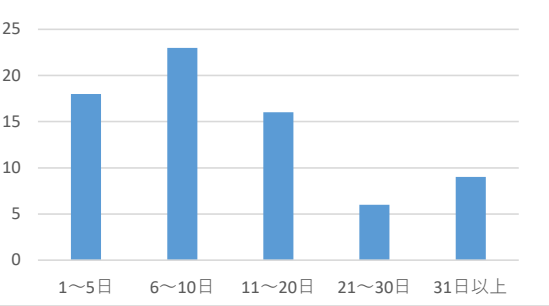
（参加した73名について）
参加企業数

1～5社	62
6～10社	8
11社以上	2



参加日数

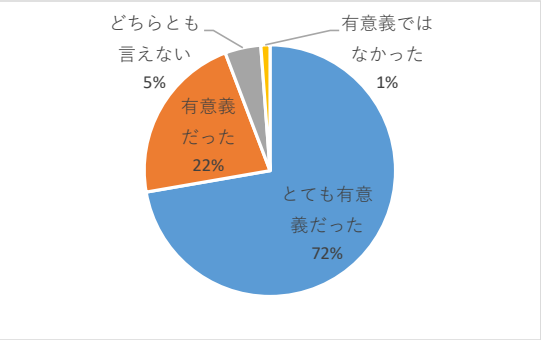
1～5日	18
6～10日	23
11～20日	16
21～30日	6
31日以上	9



＜Ⅴ　本学の満足度及び成果について＞

26. あなたにとって本学の博士前期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	125
有意義だった	38
どちらとも言えない	8
有意義ではなかった	2



令和3年		令和4年		令和5年	
197/206	96%	140/146	96%	163/173	94%

令和5年３月　博士後期課程修了確定者アンケート集計結果

◎概要　　本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、
実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。

◎実施期間　　令和5年3月3日から令和5年3月24日（学位記授与式）まで

◎実施方法　　理事（教育、学生担当）・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、
webによる回答として実施した。

◎調査対象　　（学位別）知識16名、情報13名、マテリアルサイエンス14名、融合1名　合計44名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	15	94%
情報科学	9	69%
マテリアルサイエンス	9	64%
融合	1	100%
合計	34	77%

各項目の無回答分は集計から除いている。

（参考）

令和3年		令和4年	
人数	回答率	人数	回答率
6	86%	6	75%
10	100%	6	100%
9	100%	12	71%
25	96%	24	77%

学生種別	人数
外国人留学生	16
寄宿舎居住者	9
社会人	10
東京サテライト	8
本学博士前期課程修了	13

（参考）

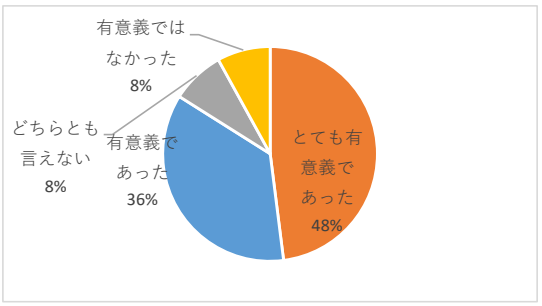
令和3年	令和4年
人数	人数
ー	20
14	7
3	1
1	2
6	5

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答（「とても良い+良い」等）の比率を比較した表をグラフ下に記載。

＜Ⅰ　教育システムについて＞

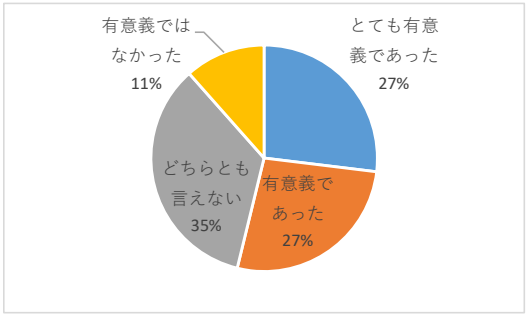
1.　本学では、入学後の１週間のオリエンテーションにおいて、学長講話、履修ルールの説明、研究室紹介、各学系・センター企画、語学教育・海外派遣、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生間の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。該当の項目を選択してください。

とても有意義であった	12
有意義であった	9
どちらとも言えない	2
有意義ではなかった	2



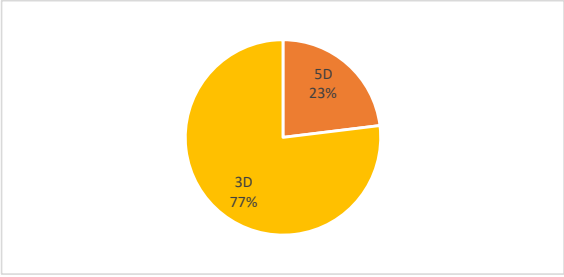
2.　令和２年４月以降の入学者については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、オリエンテーションをオンラインで実施しました。あなたにとって、このオリエンテーションは有意義なものでしたか。

とても有意義であった	7
有意義であった	7
どちらとも言えない	9
有意義ではなかった	3



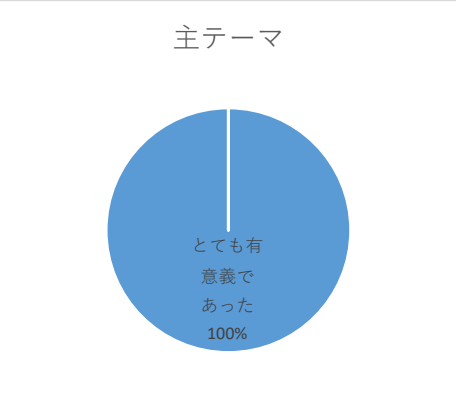
3.　本学では、学部３年から飛び入学後、４年間での一貫的な博士教育（ＳＤプログラム）、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした５年一貫的な博士教育　（５Ｄプログラム）を準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。
※融合科学共同専攻の学生は、「３Ｄ」を選択すること。 あなたが選択したのはどの履修プログラムですか。

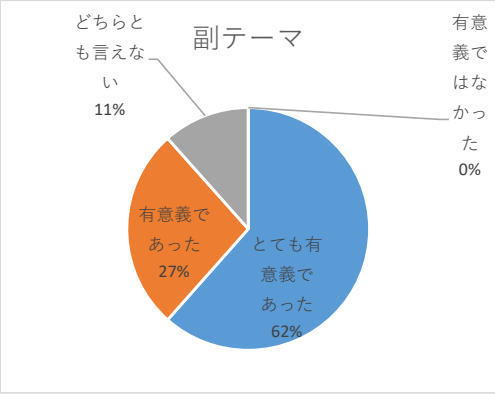
5D	6
3D	20



4. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。

	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	26	16
有意義であった	0	7
どちらとも言えない	0	3
有意義ではなかった	0	0





主テーマ研究

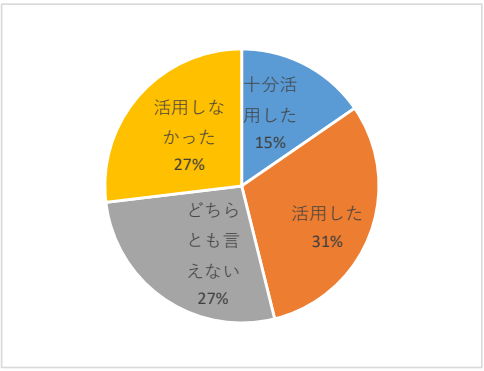
令和３年		令和４年		令和5年	
24/24	100%	24/24	100%	26/26	100%

副テーマ研究

令和３年		令和４年		令和5年	
22/24	92%	21/24	88%	23/26	89%

5. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書（旧履修計画書）の作成を求めていますが、この学修計画・記録書（旧履修計画書）は十分活用されましたか。

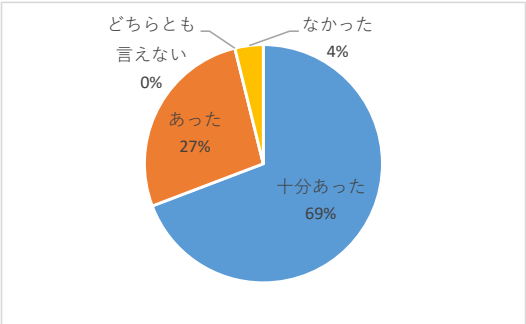
十分活用した	4
活用した	8
どちらとも言えない	7
活用しなかった	7



令和３年		令和４年		令和5年	
12/24	50%	12/24	50%	12/26	46%

6. 本学では、主体的な学修を促す仕組み（ゼミでの発表、講義におけるレポート提出、学生グループによる取組等）があったと思いますか。

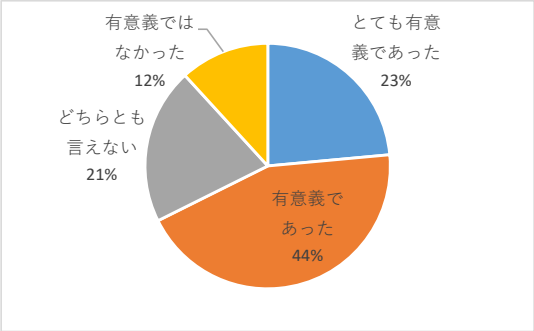
十分あった	18
あった	7
どちらとも言えない	0
なかった	1



令和３年		令和４年		令和5年	
23/24	96%	21/24	88%	25/26	96%

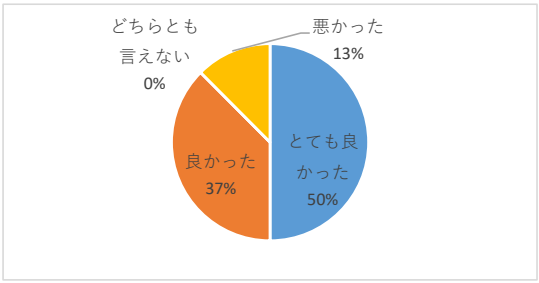
A.令和２年４月以降から、石川キャンパスでは令和４年９月まで、東京サテライトでは令和５年３月まで、授業をオンラインで実施しました。オンラインでの授業は満足できるものでしたか。

とても有意義であった	8
有意義であった	15
どちらとも言えない	7
有意義ではなかった	4



9. 社会人コース（東京サテライト）の修了者にお聞きします。講義や研究指導についてどう思いますか。

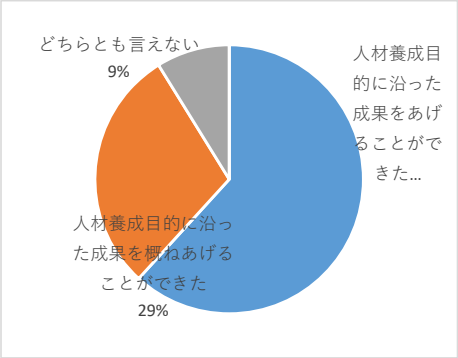
とても良かった	4
良かった	3
どちらとも言えない	0
悪かった	1



令和３年		令和４年		令和5年	
2/2	100%	0/0	ー	7/8	88%

10. 本学では、専攻毎に次のような人材養成目的を掲げています。　・先端科学技術専攻：先端科学技術の確かな専門性とともに、持続可能な社会において求められる幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ社会や産業界のリーダーとして活躍できる高度科学技術イノベーション人材を育成する　・融合科学共同専攻：グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を育成する　あなたにとって、本学の博士後期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。

人材養成目的に沿った成果をあげることができた	21
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	10
どちらとも言えない	3
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	0

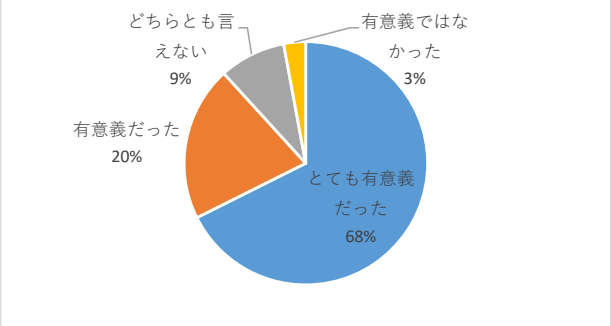


令和３年		令和４年		令和5年	
23/24	96%	23/24	96%	31/34	91%

＜Ⅱ　研究室指導体制について＞

11. 本学では、学生１人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の３人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。

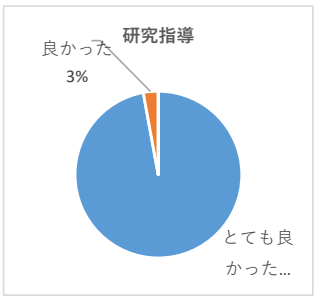
とても有意義だった	23
有意義だった	7
どちらとも言えない	3
有意義ではなかった	1

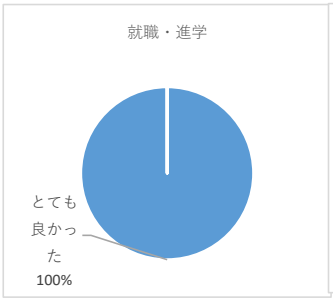


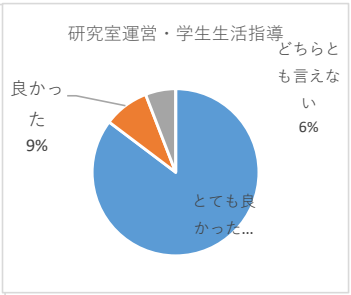
令和３年		令和４年		令和5年	
24/24	100%	17/24	71%	31/34	91%

12. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

	研究指導	就職・進学	研究室運営・学生生活指導
とても良かった	33	34	29
良かった	1	0	3
どちらとも言えない	0	0	2
悪かった	0	0	0







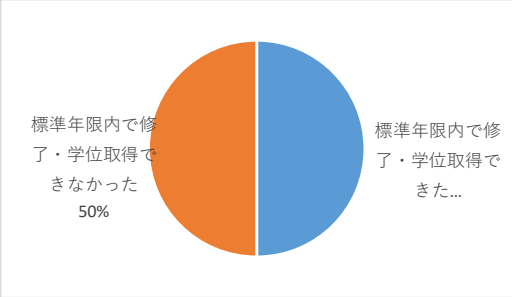
研究指導	令和３年		令和４年		令和5年	
	24/24	100%	24/24	100%	34/34	100%

就職指導	令和３年		令和４年		令和5年	
	23/24	96%	24/24	100%	34/34	100%

研究室運営・学生生活指導	令和３年		令和４年		令和5年	
	24/24	100%	24/24	100%	32/34	94%

13. あなたは、標準修業年限（３カ年）で博士学位を取得できましたか。

標準年限内で修了・学位取得できた	17
標準年限内で修了・学位取得できなかった	17



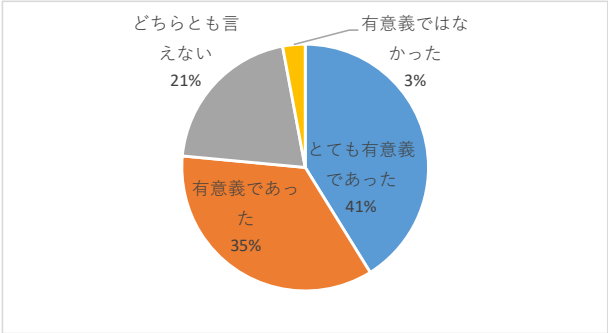
【標準年限を越えた理由】

研究の遂行上、予期せぬ結果が出たためである	2
長期履修制度を利用した計画的なものである	5
研究結果のまとめに時間を費やしたためである	1
期待した結果がえられず、学会論文等が受理されなかったためである	0
病気等、研究を続けることが困難な期間があったためである	1
主指導教員と研究の方向性で意見が一致しなかったためである	0
その他	6

（その他）
I have to work full-time while study so it is require me effort to complete both things in the same time.
Due to my husband's health problems, I need to take care of him. Therefore,I was on Leave of Absence for a year during my PhD.
Delay in journal acceptance
母の介護、子供の受験等、家庭内の事情
就活が終わらなかったため
コロナ禍による影響でヒトを対象とする実験が十分に実施できなかったことによる遅延があったため

B. 令和２年４月以降から、石川キャンパスでは令和４年９月まで、東京サテライトでは令和５年３月まで、研究指導をオンラインで実施しました。オンラインでの研究指導は満足できるものでしたか。

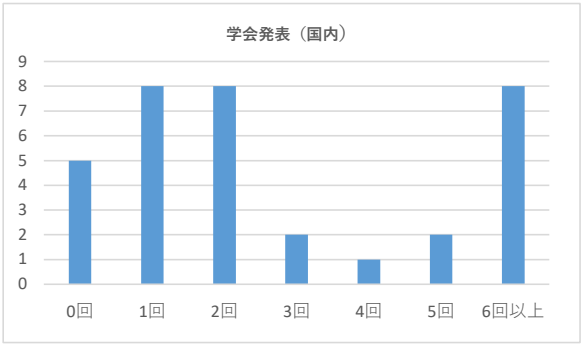
とても有意義であった	14
有意義であった	12
どちらとも言えない	7
有意義ではなかった	1



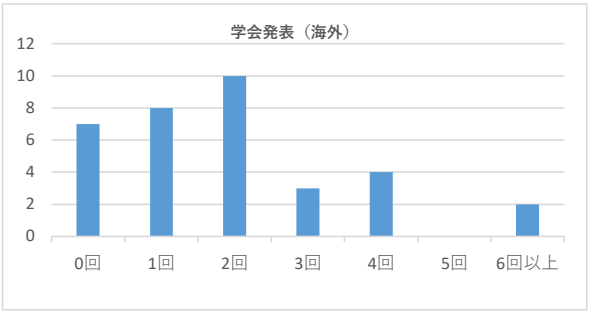
14. 本学博士後期課程在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

	国内
0回	5
1回	8
2回	8
3回	2
4回	1
5回	2
6回以上	8

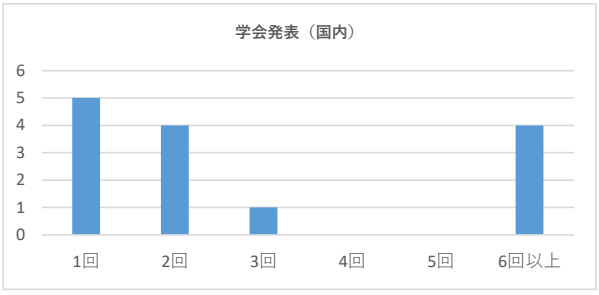


	海外
0回	7
1回	8
2回	10
3回	3
4回	4
5回	0
6回以上	2

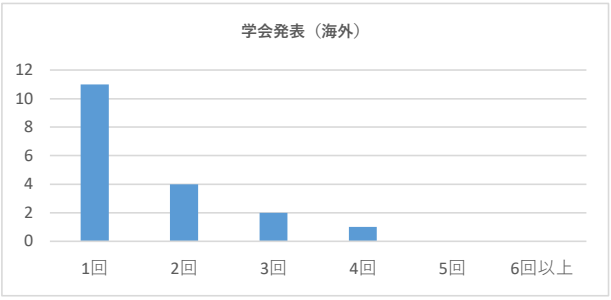


【うち費用助成あり】

	国内
1回	5
2回	4
3回	1
4回	0
5回	0
6回以上	4

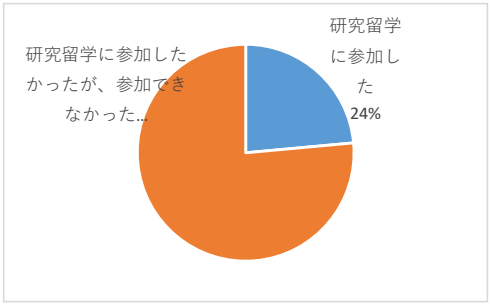


	海外
1回	11
2回	4
3回	2
4回	1
5回	0
6回以上	0



15. 博士後期課程では、研究留学及び学外研修（インターンシップ）を奨励しています。あなたはそれらに参加しましたか。

研究留学に参加した	8
研究留学に参加したかったが、参加できなかった	26



【参加できなかった理由】

副テーマ研究を選んだ。
業務上不可
時間的にきびしかった

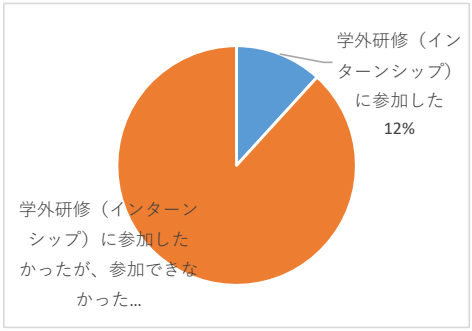
学外研修の優先
As a MEXT scholar, it is not recommended that I conduct off-campus research as part of the scholarship. However, with the minor research project and online academic events, I gained an experience similar to an off-campus research project.

業務があったため。

別に研究留学に参加したいなどと思ったことはない。

業務との調整が困難であったため。
内容をよく把握していなかった。
社会人学生だったためその時間がなかった
コロナ禍の中で海外に行くのは困難なため、研究留学をやめました。
フルタイムで働いているのでチャンスがあったとしても難しかったです。

学外研修（インターンシップ）に参加した	4
学外研修（インターンシップ）に	30

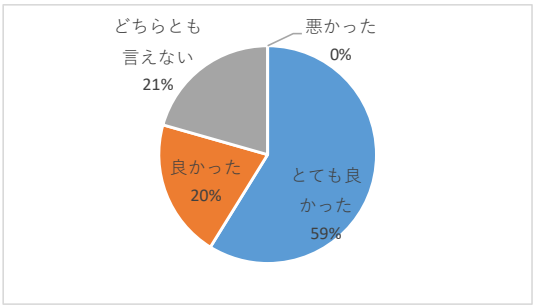


【参加できなかった理由】
Covid 19 pandamic

I choose to do minor research since I have to work full-time.
For outstanding students, this is a very good program that promotes international exchange.
There is not enough time for me.
I am a teacher in a university, so my work was a kind a inernship.
I selected the minor research project over the internship, so I couldn't:t participate the off-campus internship.
特段希望していない
副テーマ研究を選んだ。
休暇を取れれば可能であったかもしれません。少々残念です。
業務があったため。
研究留学の方に参加したため。
内容を知らなかった。

16. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

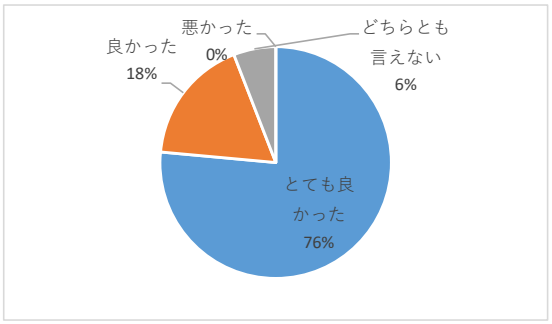
とても良かった	20
良かった	7
どちらとも言えない	7
悪かった	0



令和３年		令和４年		令和5年	
21/24	88%	21/24	88%	27/34	79%

17. 副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	26
良かった	6
どちらとも言えない	2
悪かった	0

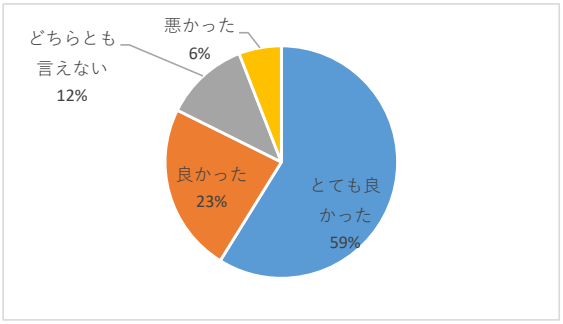


令和３年		令和４年		令和5年	
22/24	92%	23/24	96%	32/34	94%

＜Ⅲ　学生支援等について＞

18. 教育支援課、学生・留学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	20
良かった	8
どちらとも言えない	4
悪かった	2

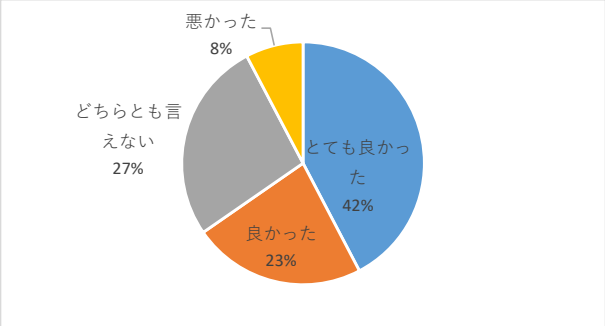


令和３年		令和４年		令和5年	
24/24	100%	24/24	100%	28/34	82%

＜Ⅳ　キャリア形成支援等について＞

19. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事を学生・留学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、企業への博士号保有者の就職に力を入れています。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

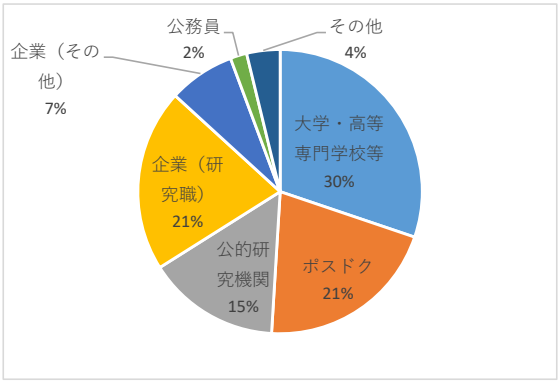
とても良かった	11
良かった	6
どちらとも言えない	7
悪かった	2



令和３年		令和４年		令和5年	
15/20	75%	17/24	71%	17/26	65%

20. 就職先候補として検討したものについて、該当する項目を全て選択してください。（複数回答可）

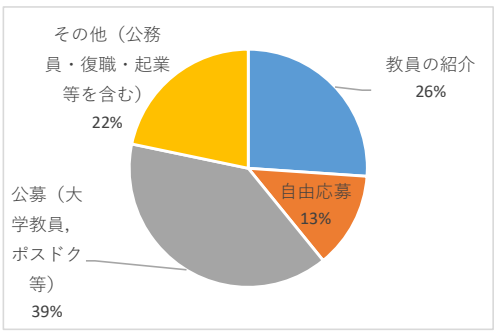
大学・高等専門学校等	16
ポスドク	11
公的研究機関	8
企業（研究職）	11
企業（その他）	4
公務員	1
その他	2



21. 最終就職先への応募方法について、該当の項目を選択してください。

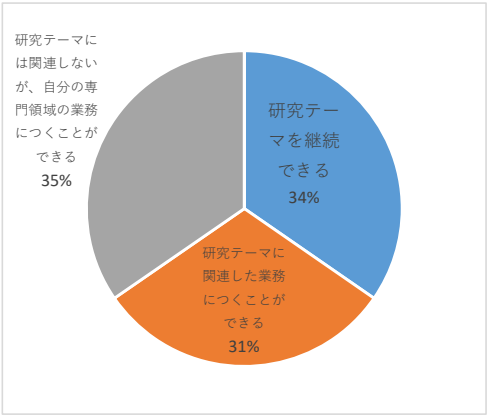
教員の紹介	6
自由応募	3
公募（大学教員，ポスドク等）	9
その他（公務員・復職・起業等を含む）	5

（その他）
勤務継続
Direct hire from joint research



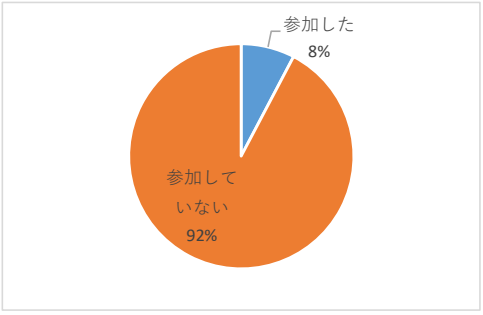
22. 博士論文研究のテーマと就職先の業務との関連性について該当の項目を選択してください。

研究テーマを継続できる	9
研究テーマに関連した業務につくことができる	8
研究テーマには関連しないが、自分の専門領域の業務につくことができる	9
研究テーマにはまったく関連しない業務である	0
配属先が未定なので判らない	0



23. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加期間を記入してください。

参加した	2
参加していない	24



（参加した2名について）
参加日数：1日
参加日数：217日

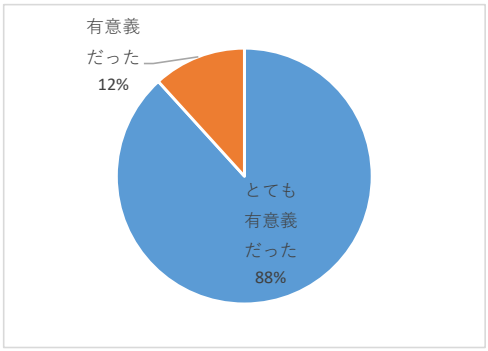
Q.インターンシップは副テーマに代えて実施することができますが、どのような形で実施しましたか。

副テーマに代えることができた	1
純粋にインターンシップとして実施した	1

＜V　本学の満足度及び成果について＞

24. あなたにとって本学の博士後期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	30
有意義だった	4
どちらとも言えない	0
有意義ではなかった	0



令和３年		令和４年		令和5年	
24/24	100%	24/24	100%	34/34	100%